2024年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会

議　案　書

2024 年 8 月 18 日（日）
東京都立大学　南大沢キャンパス
（東京都八王子市南大沢 1-1）

【2024 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会　議案】

第 1 号議案：2023 年度事業報告と 2024 年度事業計画承認の件 P3
第 2 号議案：2023 年度決算報告承認の件
・財政報告 P8
・貸借対照表 P10
・損益計算書 P11
・計算書類の注記表 P12
・附属明細書 P13
・監査報告書 P14
第 3 号議：2023 年度収支差額処分承認の件 P15
第 4 号議案：2024 年度予算承認の件 P16
第 5 号議案：CIEC 役員選挙実施の件 P19

【資料】

資料 1. 2023 年度活動報告と 2024 年度活動方針 P20
・専門委員会
・部会
・支部
資料 2. 中期活動計画最終報告 P29
資料 3. CIEC 活動報告 P34

2024 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会議案書

第 1 号議案： 2023 年度事業報告と 2024 年度事業計画承認の件

1996 年 7 月に設立された CIEC は、2013 年 6 月から一般社団法人 CIEC として、設立以来の目的を引き継ぎながらこの 10 年あまりの間活動してきました。本議案では、2023 年度の事業報告と 2024 年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる 2023 年度の取り組みの要点と 2024 年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIEC は 1996 年 7 月にコンピュータ利用教育協議会として設立され、2013 年 6 月に一般社団法人 CIEC となり、教育と学びにおけるコンピュータおよびネットワークの利用のあり方等を研究し、その成果を広く普及するとともに交流する活動を続けてまいりました。

そのような中、生成 AI の誕生は教育と学びを考える上で、大きな影響を与えたと言わざるを得ません。急速に進歩する技術により利便性が高くなった一方で、AI から生成される情報には誤りが含まれる可能性もあり、批判的な検証能力など、これまで以上に自ら考える能力が求められています。令和 5 年 7 月 4 日に文部科学省から「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」が出され、「生成 AI の教育利用の方向性」として「生成 AI 活用の適否に関する暫定的な考え方」が提示されています。また、同年 7 月１３日に同じく文部科学省から「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて」という事務連絡が出され、「基本的な考え方」や「生成 AI の取り扱いの観点」について言及されています。これらのガイドライン、事務連絡を踏まえながら、各教育機関において様々な取り組みがなされており、CIEC でも 2024PC カンファレンスで「大学教育学習における生成 AI の利活用」というテーマでセミナーを開催が予定されていますが、今後も重要なテーマの一つとして議論していくことが望まれます。

CIEC は、長年取り組んできた ICT を活用した学びから得られた成果を社会に発信していくとともに、新しい情報技術とコミュニケーションの在り方を問い続けてきましたが、教育現場におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)が加速し、教育・学習環境が大きく変わりつつある今こそ、CIEC のミッション、ビジョンを再定義し、新しい一歩を踏み出していく時期に来ていると考えられます。そこで 2024 年度は、委員会、部会、支部の連携をさらに強化し、活動を活発化させることで、ICT を活用した学びに関わる情報交換・情報発信の場としての CIEC の魅力をアピールしていきます。

また、「教育改革のパイオニア」としての CIEC を再定義することを目的に、3 年前に「CIEC 中期活動計画」を決定しました。この 3 年間、各ワーキンググループで課題を整理した上で、具体的な取り組みに着手してきましたが、本年でその取り組みを振り返り、整理し、今後の CIEC の活動に活かしてまいります。一方、中期活動計画に基づいてワーキンググループで検討をすすめ、会長の問題提起というかたちで検討をすすめてきた学会名称変更については、学会名称変更に賛

同する意見、現行の学会名称の継続を推す意見など、様々な意見があることを踏まえ、昨年の総会で、引き続き検討を継続することとしましたが、この度、最終の判断をいたします。

学会名称に関する問題提起の内容等については CIEC ホームページの中の「会長ページ」で複数の動画を公開して、情報提供をしてきました。それを踏まえ、2024 年 4 月に 2 回目の学会名称変更についての意見募集（メンバーズコメント）を実施しました。その結果は、40 の回答があり、うち 34 件が現行の「コンピュータ利用教育学会」を支持、残りの 5 件が「教育学習環境イノベーション学会」、1 件が「教育イノベーション学会」でした。以上のことから、3 年にわたって問題提起してきた学会名称変更について検討をすすめた結果、今回は変更しないことを提案いたします。

2. PC カンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2023PC カンファレンス（以下、2023PCC とする）」は、つくば国際会議場で 4 年ぶりに対面開催を実現でき、2023 年 8 月 17～19 日に、全国大学生活協同組合連合会との共催のもと、550 名の参加者が集いました。

2023PCC のテーマは「変わる社会、変わる学習環境」でした。これまでの PC カンファレンスでも類似の主題をとりあげてさまざまに議論してきました。社会の変化ということでよく紹介される特徴として「VUCA」があります。「正解がない」時代の教育・学習はどうあるべきか、が課題であり、新学習指導要領が提示した「主体的・対話的で深い学び」はまさにこの課題への対応として位置づけることができます。そのための学びの場として、アクティブラーニングや PBL などが取り入れられ、さまざまな幼児・児童・生徒 1 人 1 人の教育ニーズに応えるようなプログラムが提供されるように変革がすすめられています。また、コロナによってオンライン教育環境が一般化するとともに、GIGA スクール等により児童・生徒 1 人 1 人がタブレット等を活用して学ぶ環境もすすんでいます。このようなテクノロジーを活用し学習者個人に適合した個別最適な学びの提供が追求されています。さらに ChatGPT などの生成 AI の登場とともに、教育現場での活用あるいは使用不可などの議論・対応が始まっています。私たちは学習する存在です。生まれたとき（いや生まれる前）から私たちは私たちをとりまく環境との相互作用を通じて学習し続けています。近代社会以降は、学校教育が制度化されて子どもの教育・学習機会を保障するようになりました。もちろん学校の外にも学びの場はあり、「遊び」を通じた学びにも目を向けることも大事です。最近では、スマホ・タブレットの利用接触時間が長くなっており、現代の子どもをめぐる学習環境としては無視できません。2023PCC では、このように社会の変化に対応するように変化していく学習環境について考え学ぶ機会となりました。

初日の基調講演では「公正な社会の実現に向けて ―AI 時代の学習環境―」の講演が行われ、それを受けて、シンポジウム「変わる社会、変わる学習環境」が行われました。また、分科会では、U-18 セッションの 9 件を含む、55 件の口頭発表、および 16 件のポスター発表がありました。U-18 を対象にしたセッションは、春季カンファレンスで実施してきた経験が活かされています。また、新たな取り組みとして、2022PCC でオンラインにより実施された CIEC Online Café が、対面で実施され、基調講演者も含めた参加者の貴重な交流の場となりました。

「2024PC カンファレンス」は、東京都立大学南大沢キャンパスで、8 月 17～19 日に開催予定です。昨年はようやく、つくば国際会議場での対面開催となりました。そして、いよいよ今回は、大学キャンパスでの PC カンファレンス開催となります。全体テーマは、「より良い世界のための新たな教育を目指して」です。今回のテーマは、紛争や戦争・コロナ禍に代表される疫病・気候変動や地震等による大規模災害など、世界的・地域的に平和で平穏な社会生活が脅かされる中で、より良い世界を築くために教育を通じて私たちは何ができるのか、をあらためて問うために設定されたものです。生成 AI、オンライン教育、シミュレーション、VR・XR、ロボティックスなど、様々なテクノロジーが台頭し進化する中で、新たな学び方や教え方が生み出され、教育・学習のあり方は変化し続けています。一方で、多様な価値観・文化・思想が、時に軋轢（あつれき）を生じさせ、世界は不安定で混沌とした状態に陥りがちです。私たちは、この両者を見据えながら、個人の学習環境や大学・学校等の教育機関におけるイノベーションをより良い世界に向かうための推進力とすべき時代に生きているのではないでしょうか。東京都立大でも、多様な学びを求め、コロナ禍後の授業を「新しい対面授業」と称して、対面やオンライン形態を取り混ぜたブレンド型の授業を推進しています。また、基礎教育課程における情報教育についてデータサイエンスを指向したカリキュラムに改編するとともに、データサイエンス副専攻を昨年度から設置しました。また、AI 関連として、倫理面に配慮した先進の AI 活用を目指して、TMU AI チャレンジ支援という研究補助金を設けるなど新たな取り組みが開始されています。本年度の PC カンファレンスが、開催期間を通じ、「テクノロジーを利用することによって、どのように学習・教育をより良くするか」だけにとどまらず、「そのような先進的な学習・教育によって、私たちは、どのようにより良い世界を目指すことができるか」を参加者の皆さんと考える機会になることを期待しています。

3.　みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の 4 つの委員会が理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自ら CIEC 研究会の企画実施を担当するとともに、各部会等が開催する研究会の調整・管理を行っており、今年度も研究大会として「CIEC 春季カンファレンス」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.15」を刊行しました。春季カンファレンスは、U-18 セッションがオンラインで、口頭発表は対面での開催となりました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ＆エデュケーション』の編集を担当し、55 号と 56 号を刊行しました。49 号から、会誌編集に関わる作業の情報化を進めるために、オンライン投稿・査読システムを導入して編集作業が行われています。広報・ウェブ委員会は CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2023 年度も、研究会、カンファレンスなどのオンラインイベントの開催を積極的にサポートしました。そして、2022PCC からは公式サイトの運営を担当しています。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて情報提供をすすめております。2023 年度は英国ケンブリッジ大学とオンラインで接続し、「教師の知恵を結集する：Camtree デジタルライブラリの教育革新」というテーマで研究会を開催しました。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、生協職員部会が活動を展開しています。小中高部会は関東、関西、北海道の 3 地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PC カンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、一昨年からの新たな試みである、小規模でインフォーマルな気軽に参加できる会としての「CIEC サタデーカフェ」の開催が 30 回を超え、継続的に開催されています。生協職員部会は、教育・研究に貢献する生協事業の可能性を追求する研究会、教職員・学生・生協職員の年代や立場を超えた相互に学び合えるネットワークづくりなど、多様な活動をすすめています。2023PCC では「英語学習」に着目して学習方法の変化や今後の学習方法に関するセミナーを企画開催しました。2022 年度から「数理・データサイエンス・AI 教育研究部会」が設立され 2023PCC では小中高部会との共催で、初等中等そして高等教育に体系的に繋げるデータサイエンス教育の情報共有を目的としてセミナーを企画開催しました。

支部は CIEC の地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の 2 つが活動しています。北海道支部では、2023 年 12 月 17 日に、酪農学園大学で PC カンファレンス北海道を開催し、2024 年 10 月あるいは 11 月に対面開催での実施を予定しています。九州支部では、九州大学をホスト校として、九州 PC カンファレンスを対面・オンラインのハイブリッドで開催し、2024 年度も 2024 年 11 月 16、17 日に長崎大学での開催を予定しています。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度 659 名(2024 年 4 月）となりました。近年は個人会員数が減少傾向にありますが、これに歯止めをかけられるよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PC カンファレンスや研究会等への未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は 75 団体(2024 年 4 月）であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設等、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっております。会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムを導入し、査読も確実に運営され、年 2 回の会誌発行を順調にすすめております。最新号を除く会誌は、J-STAGE で公開されており、最新号も発行の 6 か月後には公開されます。

また、Facebook、Twitter の CIEC 公式 SNS での情報発信を強化し、CIEC ホームページも内容も随時更新することにより、ニューズレターの他、各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、CIEC 会員へのインタビューや対談、学びに役立つサービスの紹介などをお届けしている CIEC ホームページの「Special」では、これまで、会長発信企画「会長インタビュー」、各種表彰受賞者インタビューなどを発信してきました。その一部は、YouTube の CIEC 公式チャンネル（一般社団法人 CIEC）において、動画配信を行っています。今後、さらに充実させていく予定です。

6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も減少傾向が続いておりますが、特に COVID-19 感染拡大の影響による企業等の大幅な減収減益は、団体会員の動向にも、大きな影響を及ぼしつつあると考えられます。非常に困難な局面ではありますが、引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。

教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIEC の場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進等で収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

また、終身会員制度について、メンバーズコメントの手続きを経て、永年会員への感謝と、学会活動への参加継続のため、終身会員制度を導入し、運用しています。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIEC の活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。また、D&I の観点からも女性役員の拡充に向けて努力しています。

日常的な CIEC 活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2024 年度においても引き続き、メールによるコミュニケーションから、Slack などの新しいコミュニケーションツールの活用をすすめ、法人としての効率的な事務局活動を進めます。

以上

第 2 号議案：2023 年度決算報告承認の件

CIEC2023 年度財政報告

［概況］

2023 度決算は経常利益が 8,284,851 円の赤字となりました。一部対面で開催された理事会や専門委員会の春季カンファレンス、研究会での会議費用が予算を上回る費用となりました。また CIEC 春季カンファレンス 2023 での研究発表投稿における査読に関して、会員から不正とハラスメントの訴えがあり、そのための「調査チーム」の費用が約 750 万円と大きな支出となりました。

会費収益は個人会員数、団体会員数が大幅増加とならず、予算を下回りました。

（文中の金額は原則として 1 万円未満切り捨て。詳しくは損益計算書をご覧ください）

〔経常損益の部〕

I.［経常収益］

1. 会費収益　976 万円／予算 1,060 万円

・　個人会員会費収入は 367 万円で予算対比 32 万円の減（-8%）、団体会員会費収入は 609 万円で予算対比 51 万円の減（-8%）となりました。

＜会員状況＞	2023 年 4 月 1 日	2024 年 3 月 31 日	2023 年 4 月 1 日
個人会員	679	688	659
団体会員	75	76	75

2. 財務収益　221 円／予算 2 千円

・　受取利息　221 円

II.［経常費用］

1. 事業費用　691 万円／予算 673 万円

(1)会議費用　165 万円／予算 87 万円

・　対面会議の増加により交通費等が増加しました。

(2)会誌発行費用　382 万円／予算 340 万円

・　Vol.55、Vol.56 を発行しました。印刷費用、J-stge へアップのための費用が増加しました。

(3)広報費用　0 万円／予算 10 万円

(4)研究会費用　36 万円／予算 50 万円

・　春季カンファレンス及び第 131 回、132 回研究会を開催し、131 回研究会はオンラインで開催しました。

・　春季カンファレンス研究会論文集は PDF 版のみ発行しています。

(5)調査費　0 万円／予算 0 万円

(6)事業活動費用　6 万円／予算 25 万円

・　三役会議費用を計上しています。

(7)支部活動援助金　61 万円／予算 61 万円

・　北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(8)部会活動援助金　36 万円／予算 77 万円

・　小中高部会 29 万円、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 6 万円、生協職員部会の支出はありませんでした。

(9)学会表彰事業費　　3 万円／予算 3 万円
・　2023 年度は学会論文賞 1 件の実績です。

(10)教育出版費用　0 万円／予算 0 万円

(11)周年事業費用　0 万円／予算 0 万円

(12)PCC 支援金　0 万円／0 万円

(13)中期活動計画調査費用　0 万円／20 万円

2. 管理費用　　1,113 万円／予算 387 万円
(1)ネットワーク運営費　　10 万円／予算 5 万円
・　保守管理業者委託費、サーバー更新料、ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリーサービス）の費用です。

(2)事務局通信費　　18 万円／予算 25 万円

(3)事務局業務委託費　　300 万円／予算 300 万円

(4)事務用品費　　6 万円／予算 15 万円

(5)備品購入費　　0 円／予算 10 万円

(6)管理委託費　　2 万円／予算 6 万円
・　会計システム費用です。

(7)雑費　　25 万円／予算 25 万円
・　個人情報取扱事業者保険料、振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費　　0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課　　760 円／予算 2 千円

(10)外部委託費　　750 万円／予算 0 円

〔経常外損益の部〕

III.［経常外収益］
　雑収入　6 万円／予算 10 万円
・　春季カンファレンス参加費等です。

IV.［法人税等］
　7 万円／予算 7 万円
・　法人都民税 7 万円です。

V.［当期利益金］
・　3 万円の黒字予算に対し 828 万円の赤字となりました。

以上

計 算 書 類

第１　貸借対照表

貸　借　対　照　表

2024年6月30日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	15,374,060	流動負債	7,479,231
現金及び預金	15,051,580	未払金	1,539,594
立替金	24,439	前受金	5,721,000
未収金	298,041	預り金	218,637
		負債合計	7,479,231
		（純資産の部）	
		その他	7,894,829
		正味財産	7,894,829
		繰越利益剰余金	7,894,829
		純資産合計	7,894,829
資産合計	15,374,060	負債・純資産合計	15,374,060

注）この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型（改訂版）」（2015年5月7日　経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

第２　損益計算書

損　益　計　算　書

（自2023年7月1日　至2024年6月30日）

（単位：円）

科　　目	金　額	
（経常損益の部）		
Ⅰ　経常収益		
1　会費収益		
1）　個人会員会費収入	3,675,000	
2）　団体会員会費収入	6,090,000	
	9,765,000	
2　財務収益		
1）　受取利息	221	
	221	9,765,221
Ⅱ　経常費用		
1　事業費用		
1）　会議費用	1,659,994	
2）　会誌発行費用	3,820,536	
3）　研究会費用	361,586	
4）　事業活動費用	67,750	
5）　支部活動援助金	610,000	
6）　部会活動援助金	368,491	
7）　学会表彰事業費用	30,000	
	6,918,357	
2　管理費用		
1）　ネットワーク運営費	102,233	
2）　事務局通信費	180,213	
3）　事務局業務委託費	3,000,000	
4）　事務用品費	69,956	
5）　管理委託費	20,000	
6）　雑費	254,203	
7）　租税公課	760	
8）　外部委託費	7,504,350	
	11,131,715	18,050,072
経常損失		8,284,851
（経常外損益の部）		
Ⅲ　経常外収益		
1 その他経常外収益	67,940	67,940
Ⅳ　税引前当期純損失		8,216,911
Ⅴ　法人税等	70,000	70,000
Ⅵ　当期純損失		8,286,911

注）この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型（改訂版）」（2015年5月7日　経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

第３　計算書類の注記表

１.重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

（１）　消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

２.損益計算書に関する注記

（１）法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

３.金融商品に関する注記

（１）金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は１年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

（２）金融商品の時価等に関する事項

2024 年 6 月 30 日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定法方法については（注１）を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　価	差　額
①現金預金	15,051,580	15,051,580	－
資産計	15,051,580	15,051,580	－
③前受金	5,721,000	5,721,000	－
負債計	5,721,000	5,721,000	－

（注１）　金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1)　現金預金　（単位：円）

内　　訳		金　額
現金		271,922
当座預金	ゆうちょ銀行	874,145
普通預金	りそな銀行	1,786,778
普通預金	中央労働金庫	2,118,735
定期預金	中央労働金庫	10,000,000
合　　計		15,051,580

(2)　前受金

内　　訳	金　額
次年度個人会員会費	2,661,000
次年度団体会員会費	3,060,000
合　　計	5,721,000

2024年7月21日

監 査 報 告

一般社団法人CIEC（コンピュータ利用教育学会）

監事　鳥居 隆司

監事　菅谷 克行

監事　一瀬 欽也

第11期事業年度（2023年7月1日～2024年6月30日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

定款及び監事が定めた監査方針に基づき、各監事は調査を行い、監査を実施しました。具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また随時説明を求めました。

2. 監査の結果

1) 事業報告は、法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

3) 計算書類とその附属明細書は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報

ありません。

以　上

第 3 号議案：2023 年度収支差額処分承認の件

2023 年度利益金処分案

Ⅰ	当期未処分利益金	7,894,829 円
Ⅱ	次年度繰越利益金	7,894,829 円

上記のとおり、 2023 年度利益金は 次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 ＣＩＥＣ（コンピュータ利用教育学会）

会長理事　　若林　靖永

第４号議案：2024 年度予算承認の件

2024 年度予算計画

I.［経常収益について］　1,060 万円

1.会費収益　　総額 1,060 万円

・個人会員会費収入は 400 万円の計画とし、PC カンファレンス会場での新規加入増を見込んでいます。
・団体会員会費収入は PC カンファレンスでの「教育・IT フェア」「団体会員発表セッション」の企画で新規加入の機会増を図り 660 万円の計画としています。

2.財務収益

・　受取利息で 2 千円を計上します。

II.［経常費用について］　　1,060 万円

1.事業費用　　総額 655 万円

1)会議費用　90 万円

・ オンラインでの会議開催を前提としますが，必要に応じて対面会議も実施します。
・ 総会費用は、15 万円を計上します。
・ 理事会は、8 月(第 1 回)、12 月、3 月、6 月、8 月の 5 回分を、オンラインでの出席を前提とし、25 万円を計上しています。
・ 広報・ウェブ委員会はオンライン会議を前提とし、5 万円を計上します。引き続き各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
・ 国際活動委員会は 5 万円を計上します。
・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 10 万円を計上します。
・ Zoom アカウント購入費用として 10 万円計上します。

2)会誌発行費用　340 万円

・12 月の 57 号、6 月の 58 号発行費用全体で 340 万円を計上します。(取材・送料込)。
・会誌発行費用には JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円、オンライン投稿システム費用として 30 万円が含まれます。
・またオンライン投稿システム費用の内訳は 129,600 円（年間サポート料）＋160,000 円（利用料@4,000 円×40 本程度）です。

3) 広報費用　10 万円

・HP 構築運用費として 10 万円を計上します。

4)研究会費用　50 万円

・研究会費用は 1 回上限 15 万円です。
・ 春季カンファレンスのタイムキーパー採用費、論文賞賞金、JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用等を計上しています。

5)調査費用　0 万円

・2024 年度は調査を行いません。

6)事業活動費用　25 万円

・ 三役会議は、15 万円計上します。通常の三役会議はオンラインで行い、対面会議は理事会と同日開催とし、臨時開催費用 1 回分を計上します。
・ 事業委託費（電子証明書費用）は 10 万円を計上します。

7)支部活動援助金　61 万円
・支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8)部会活動援助金　76 万円
・部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 77 万円計上します。小中高部会 60 万円、生協職員部会 6 万円、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 10 万円です。

9)学会表彰事業費用　3 万円

10)教育出版費用　0 万円
・以前抜き刷り費用を別に計上しておりましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。

11)周年事業費用　0 万円
・今期は計上いたしません。

12)PCC 支援金　0 万円
・今期は計上いたしません。

2. 管理費用　　総額 405 万円
1)ネットワーク運営費　5 万円
・サーバ更新料、ドメイン更新費

2)事務局通信費　25 万円

3)事務局業務委託費　300 万円

4)事務用品費　15 万円

5)備品購入費　10 万円

6)管理委託費　12 万円
・システム運用費用、登記費用として 12 万円を計上します。

7) 雑費　37 万円
・振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として 37 万円を計上します。

8) 予備費　1 万円

9) 租税公課　2 千円

10)外部委託費　0 万円
・今期は計上いたしません。

以上

一般社団法人CIEC2024年度予算案

（単位：円）

科　　目	金　額	
（経常損益の部）		
Ⅰ　経常収益		
1　会費収益		
1）　個人会員会費収入	4,000,000	
2）　団体会員会費収入	6,600,000	
	10,600,000	
2　財務収益		
1）　受取利息	2,000	
	2,000	10,602,000
Ⅱ　経常費用		
1　事業費用		
1）　会議費用	870,000	
2）　会誌発行費用	3,400,000	
3）　広報費用	100,000	
4）　研究会費用	500,000	
5）　調査費用	0	
6）　事業活動費用	250,000	
7）　支部活動援助金	610,000	
8）　部会活動援助金	770,000	
9）　学会表彰事業費用	30,000	
10）　教育出版費用	0	
11）　周年事業費用	0	
12）　PCC支援金	0	
13）　中期活動計画調査費用	200,000	
	6,730,000	
2　管理費用		
1）　ネットワーク運営費	50,000	
2）　事務局通信費	250,000	
3）　事務局業務委託費	3,000,000	
4）　事務用品費	150,000	
5）　備品購入費	100,000	
6）　管理委託費	60,000	
7）　雑費	250,000	
8）　予備費	10,000	
9）　租税公課	2,000	
10）　外部委託費	0	
	3,872,000	10,602,000
3　財務費用	0	
1）　支払利息	0	
経常損失金		0

第５号議案：CIEC 役員選挙実施の件

CIEC 役員選挙規約に基づき 2024 年度・2025 年度（2024 年度社員総会から 2026 年度社員総会まで）の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事
団体会員の理事
監事

資料１：専門委員会、部会、支部 2023 年度活動報告と 2024 年度活動方針

※敬称略にて作成しています。

会誌編集委員会

1. 2023 年度活動報告

⑴ 会誌「コンピュータ＆エデュケーション」55 号（2023.12.1）を発行しました。

- INTERVIEW 「資格試験を運営する一企業が考えていること」
  出張勝也さん（株式会社オデッセイコミュニケーションズ　代表取締役社長）に聞く／寺尾敦編集長
- 特集「生成 AI を活用した新しい教育への展望」：3 本／特集担当編集委員：大岩幸太郎委員
- 2023PC カンファレンス報告「学びのアタリマエを揺さぶる」
- 研究論文 3 本／実践論文 8 本／研究ノート 2 本／実践報告 2 本／本の紹介

※特集を除く一般投稿は 16 本で採択されたものは 11 本、採択率は 69%でした。

⑵ 会誌「コンピュータ＆エデュケーション」56 号（2024.6.1）を発行しました。

- INTERVIEW :「学習工学の展開」
  平嶋宗さん（広島大学大学院先進理工系科学研究科　教授）に聞く／寺尾敦編集長
- 特集「学習環境とゲーム」：4 本／特集担当編集委員：松下慶太委員
- 研究論文 1 本／実践論文 4 本／

※特集を除く一般投稿は 14 本で採択されたものは 7 本、採択率は 50%でした。

⑶ 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。

第 89 回：2023 年 8 月 19 日（つくば国際会議場および WEB 会議システムによるハイブリッド会議）
第 90 回：2023 年 10 月 15 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）
第 91 回：2024 年 4 月 7 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）

⑷ 2023PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「CIEC 会誌『コンピュータ＆エデュケーション』に採択されるために―論文賞受賞論文に学ぶ論文の書き方―」パネリスト：熊澤典良（鹿児島大学）・寺尾敦（青山学院大学）を開催しました。

⑸ 会誌 49 号からオンライン投稿・査読システム Editorial Manager を導入し、継続して運用しています。

2. 2024 年活動方針

⑴ 会誌『コンピュータ＆エデュケーション』57 号および 58 号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ＆エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。

⑵ 本格運用を開始したオンライン投稿・査読システム Editorial Manager（会誌第 49 号より導入）について、適宜検証を行い、必要に応じてシステムの改善を図ります。

⑶ 会誌編集委員会を年 3 回程度開催する予定です。

⑷ より質の高い論文等の投稿が増えるよう、2024PC カンファレンスにて、小中高部会と合同の企画セミナーを開催します。タイトル（仮）「入門：論文執筆・効果的なプレゼン―U-18 セッションのさらなる活性化に向けて―」

⑸ 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。また、会誌の特集に関連するテーマ・トピックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。

⑹ 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。

広報・ウェブ委員会

1. 2023 年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2023 年度は、例年と同じく CIEC 公式サイトおよび SNS ツールの運用や、2024PCC 公式サイトの 4 月の公開と運用を続けています。それに加え、2021 年以前の PCC サイトの移転（2022PCC 以降のサイトの設置サーバーへの統合）を行いました。

また、中期活動計画のワーキングチームとの連携については、特に「学会及び大会名称の変更」に関する会長動画の CIEC 公式サイト（会長ページ）への掲載などを行いました。

2. 2024 年度活動方針

2024 年度は以下のような方針を念頭に活動を行います。

1. CIEC 公式サイトでの情報発信における、関係者への積極的な支援
2. 特にイベントの企画設計における、実施担当者と連携した新しい試みの実現

まず項目 1 について。CIEC 公式サイトが現在のシステム・運用体制に変わって 10 年近くが経過し、当委員会だけでなく、委員会・部会・支部が自らコンテンツを作成し発信していくという形は定着したといえます。ただ、CIEC 公式サイトの活用に関する具体的な指針の提示や支援といった、当委員会側からの働きかけが少し必要な時期に来ているとも感じます。こうした活動は当委員会が 2016 年ごろに積極的に行いましたが、各委員会・部会・支部の担当者の交代などもあって、共有している知見にも変化が出てきたのだろうと考えています。

次に項目 2 については、2023 年度の活動でも取り上げてきましたが、2024 年度も引き続き念頭に置いていきます。例えば PC カンファレンスは、会員間のコミュニケーションを促進する場にもなっていますが、2024PCC で久しぶりに大学を会場とした開催に「戻った」ものの、オンライン要素をどのように取り扱っていくかなど、新たな試みを具体化するところまではできていません。関係者との意見交換を通じてアイディアを生み出すだけでなく、実際の企画として形にするところまで持っていけるよう、関係者との連携を深めていきたいと考えています。

国際活動委員会

1. 2023 年度活動報告

2024 年 6 月 9 日（日）「教師の知恵を結集する：Camtree のデジタルライブラリで教育を革新」というテーマの研究会を Zoom で開催した。ケンブリッジ大学「Camtree：ケンブリッジ教師研究交流グループ」 主任ディレクターであるパトリック・カーマイケル博士に、Camtree のデジタルライブラリの新しいデジタルインフラについて、教師ネットワークをつなぐための「オープンリサーチ」アプローチの検索機能や、AI を活用したインフラ技術を概説してもらい、新しいデジタルインフラの実現に向けて克服すべき課題は何かを、講演をしていただき、活発な意見交換が行われた。この研究会では、新しい試みとして、字幕アプリケーション「ZMEETING」を利用することにより、ほぼリアルタイムで日本語訳を確認することができる仕組みを取り入れた。

2. 2024 年度活動方針

CIEC 会員が海外の教育関連情報を収集することができるように支援し、その環境構築に向けた立案企画を行う。具体的には、下記のような活動を模索し、研究会や PCC 等につなげる。

- 米国の ICT 環境と教育： 2023 年 6 月 25 日に行われた研究会の講師である米国 UCOM 社 Faustino Hernanndez 氏との関係を継続し、発展した研究会さらには、相互訪問等のチャンスを探る。
- 英国の ICT 環境と教育：副委員長である李先生の英国における調査報告に関する研究会を開催する。
- 2024 年 6 月 9 日に行われた Camtree の主任ディレクターパトリック・カーマイケル博士との関係を継続して

いく。

- 韓国高麗大学の李研究室： 以前行ったような日韓相互訪問などで関係を継続していく。両国の ICT 教育について共同研究を展開する。
- 諸外国の教育状況調査： 上記以外における教育 DX や情報教育の動向の情報収集ならびに調査研究などを計画する。

研究委員会

1. 2023 年度活動報告

研究委員会は、会員相互の研鑽と交流の機会創出を目的とした研究会の企画・運営を行っています。また、本委員会が主催する春季カンファレンスを定期的に開催しており、会員が研究発表・議論を行う機会を広く提供しています。2023 年度は当初の活動方針に従って、以下の活動をしました。

(1) 今年度企画された CIEC 研究会（第 131～132 回）について、企画・運営計画や実施状況などについて確認し、Web や ML にて告知をおこないました。

(2) 「CIEC 春季カンファレンス 2024」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.15」（電子版）を刊行しました。概要は下記のとおりです。

「CIEC 春季カンファレンス 2024」は、コロナの状況を鑑みながら開催方法を慎重に検討し、昨年に引き続き対面開催を前提に発表論文の募集をしました。(U-18 論文は，オンライン発表のみ)

- 開催概要と論文数

日程：2024 年 3 月 9 日（土）

会場：東京理科大学 森戸記念館、Zoom (U-18 のみ)

発表件数：

・一般論文（査読付）発表：９件（速報論文６件、資料３件）

※応募 14 件　採択９件　採択率 64%

・ショートペーパー（査読なし）発表：３件

・U-18 論文発表（概要審査）：14 件

参加者：合計 61 名

- 表彰

査読付論文を対象とした論文賞 1 件、U-18 発表論文を対象とした U-18 最優秀賞１件、U-18 優秀賞１件、U-18 奨励賞３件が、各賞の表彰となりました。当日は、発表者・参加者の皆さまのご協力のもと、活発な質疑応答や議論が交わされ、大きなトラブルも無くスムーズにプログラムを進行できました。CIEC 春季カンファレンス 2024 に関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

表彰：

◎論文賞：

・寺門芽衣・菅谷克行　（茨城大学）：「日本語学習における AI 機械翻訳の活用方法」

◎U-18 最優秀賞：

・坂本俊一朗（早稲田大学高等学院）：「暑さ指数の一般的気象要素に基づく予測モデルの作成と考察」

◎U-18 優秀賞：

・花嶋俊亮・御園彩生・松崎舜・橋本光太朗（東洋大学附属牛久高等学校）：「VR を用いたオンライン授業環境の構築とその効果に関する検討」

◎U-18 奨励賞：

・黒木勇人（早稲田大学高等学院）：「安価で軽量な超小型ドローンの自動障害物回避システムの開発」

・和田千寿・北尾慧真生(奈良県立奈良北高等学校)：「胸部 X 線画像における側弯症の有無の自動判別を行う深層学習モデルの作成と比較」

・菅智哉・山崎環大・山口夏輝・古谷颯之介（長崎県立長崎南高等学校）：「長崎県の海ごみの状況と海岸漂着分布特徴」

- 査読のプロセス

  査読のプロセスを，フローチャートにて，WEB ページに掲載しました。
- U-18 参加者向けにアンケートを実施（集計中）
- 研究委員会の開催

  2023 年 10 月 1 日　（WEB 会議システムによる遠隔会議）
  2023 年 12 月 9 日　（杉並会館で対面）
  2024 年 1 月 17 日　（WEB 会議システムによる遠隔会議）
  2024 年 2 月 1 日　（WEB 会議システムによる遠隔会議）
  2024 年 3 月 9 日　（森戸記念館で対面）
- CIEC 春季カンファレンス論文集の J-STAGE への申請・登録

申請済で，現在，手続き中です。

2. 2024 年度活動方針

(1) 春季カンファレンスについて、以下の点を検討します。

・　開催日程、会場（対面・ポスター/オンライン）、投稿期日などについて、検討します。

・　参加者増に向けて、他の委員会や部会との連携も視野にいれ開催方法を検討します。

(2) 春季カンファレンスの他、CIEC で開催される各種研究会や研究交流会の企画・運営案などを確認・承認し、広報・ウェブ委員会と連携しながらより一層の周知拡大を目指します。

(3) 春季カンファレンスと、夏の PC カンファレンスや，会誌などと共通する事柄など，すり合わせ共通可能な部分は，歩調を合わせていきたいと考えています。

小中高部会

1. 2023 年度活動報告

(1) 2023PC カンファレンス（つくば国際会議場）の運営協力

・分科会発表：U-18 部門にかかる発表支援、運営、審査協力

・セミナー　8 月 19 日（土）14:15～15:55　(MDASH 部会との共催)

セミナーテーマ：初等中等教育におけるデータサイエンス

1. 小中高のつながりを意識したデータサイエンス教育～中学校数学科を中心に～
   藤原大樹（お茶の水大学附属中学校）
2. 高等学校におけるデータサイエンス教育 -AI アプリケーション開発からデータ分析手法を学ぶ授業実践から-
   ドゥラゴ英理花（聖徳学園中学・高等学校）
3. 初等中等教育におけるデータサイエンスに関するパネルディスカッション
   テーマ：初等中等教育＋大学へ向けて、データサイエンス教育の現状と今後目指すための課題について
   司会：竹内光悦（実践女子大学）
   パネラー：藤原大樹（お茶の水大学附属中学校）・ドゥラゴ英理花（聖徳学園中学・高等学校）
   平田義隆（京都女子高校・京都女子大学）・宿久洋（同志社大学）・中村泰之（名古屋大学）

(2) 研究会（１回）

① 第 132 回研究会

テーマ：Wolfram 言語で体験！ ワクワク学ぶ AI・データサイエンス授業とは

開催日：2024 年 6 月 23 日(日)　13:00 - 16:00

場所：京都ノートルダム女子大学

講師：　金光安芸子(ウルフラムリサーチ)・北村美穂子(京都ノートルダム女子大学)・小野陽子(大妻女子大学)

(3)　CIEC サタデーカフェの開催及び運営

第 24 回：2023 年 7 月 15 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：教員が足かせにならない、実践から入るデータサイエンス教育

話題提供者：竹内 光悦 氏（実践女子大学）

第 25 回：2023 年 9 月 16 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：ChatGPT の衝撃！ 教育現場は生成 AI とどう向き合っていくか

話題提供者：中野 淳 氏（日経ＢＰ）

第 26 回：2023 年 10 月 21 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：科学概念の多様な表現や文章構成による学生の理解の違い

話題提供者：興治 文子 氏（東京理科大学）

第 27 回：2023 年 11 月 25 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：京都教育大学学生による入学生へのサポート活動について

話題提供者：唐崎 百音 氏、橋屋 泰平 氏、上野 瑞季 氏、池田 志穂子 氏（京都教育大学）

第 28 回：2023 年 12 月 9 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：「学校にあるデータ」を分析したら、こんなことが！

話題提供者：坂本 憲志 氏（株式会社 JMC　代表取締役社長）

第 29 回：2024 年 1 月 20 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：情報教育の学習ツールに３６０°全円周画像を活用できるのか？

話題提供者：布施 雅彦 氏（福島工業高等専門学校）

第 30 回：2024 年 2 月 17 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：SARTRAS 共通目的事業による著作権学習教材の制作と公開

話題提供者：布施 泉 氏（北海道大学）

第 31 回：2024 年 4 月 20 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：今後の多文化共生社会に向けた授業づくり、学校の取り組み

話題提供者：道下 あかね 氏（大阪府東大阪市立枚岡西小学校）

第 32 回：2024 年 5 月 18 日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：ソーシャルメディアを通じたコミュニケーションにおける露出と覗き

話題提供者：白土 由佳 氏（文教大学）

第 33 回：2024 年 6 月 15日(土)　20：00 - 21：00

テーマ：若手の成長を願う 1on1 ミーティングの実践

話題提供者：森岡 健太 氏（京都市立桂坂小学校）

(4)　その他

・CIEC 春季カンファレンス 2023 小中高生参加協力

2. 2024 年度活動方針

・ 大学入試共通テストへの「情報Ⅰ」の導入について　～「情報Ⅰ」のあり方について考える～

高等学校では 2022 年度から共通教科「情報」の科目が「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」に再編され、いよいよ 2025 年度

入試より大学入試共通テストにおいて「情報Ⅰ」が導入される。高等学校の現場ではすでにこれを意識した教育がなされている。それらを踏まえた「情報Ⅰ」の今後のあり方について考察し、理解を深めていきたい。

・ 小中高におけるデータサイエンス教育について

現在、小中高校では社会の変化を受けて、統計教育やデータサイエンス教育領域が注目を浴び、新指導要領でも大きく取り扱われている。しかし、実際にデータの収集から行い、分析、対策、評価という一連のプロセスにおいて、それらを指導することに戸惑いを持つ現場の教員の声も多く出ている。また大学入試共通テスト等の試験範囲にもなっており、活用できる力をつける教育より、試験を突破するための知識を身につけるものだけになってしまう懸念も囁かれているところである。そこで、様々な現状を踏まえ、現場での統計教育及びデータサイエンス教育の今後のあり方について、議論していきたい。

・ AI(人工知能)の教育的利用について

ChatGPT の流行に代表されるように、AI(人工知能)はすでに我々の生活空間に共存していると言っても過言ではない状態になっている。これらの登場に伴って、教育の現場では、この技術革新が学習者の「学び」を深められることが期待されている一方で、これをどのように利用するかが社会的な課題にもなっている。この研究会では社会に AI が浸透してきているいま、これと教育の関わりについて様々な観点から整理し、今後の課題について議論を進めていきたい。

具体的な活動

(1) 研究会の実施（基本的には対面で行うことを視野に入れたいがオンラインの可能性もあり。）
　・大学入試共通テストへの「情報Ⅰ」の導入について
　・小中高におけるデータサイエンス教育について
　・AI(人工知能)の教育的利用について
(2) 2024PC カンファレンス（東京都立大学）への協力
(3) CIEC サタデーカフェの運営
(4) 北海道地区において，PC カンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施
(5) 世話人会の実施（年３回，関東・関西等で開催予定）
(6) 国際活動委員会との連携
(7) MDASH(数理・AI・データサイエンス)部会との連携
(8) 研究委員会との連携
(9) プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

休止中

生協職員部会

1. 2023 年度活動報告

(1) 研究会／企画

８月 PC カンファレンス　セミナー

「学習方法の変化を英語学習から考えてみる」

パネリスト

佐藤 健（東京農工大学 教授）

久保 岳夫（開成学園 非常勤講師）

横山 あかり（津田塾大学英語英文学科３年）

司会

松葉 哲史（工学院大学学園生活協同組合職員・CIEC 生協職員部会）

⑵ 世話人会（関東世話人会計５回実施）

2023/5/12 6/8 6/23 8/19　2023PC カンファレンス打ち合わせ

2024/3/14　2024PC カンファレンス打ち合わせ

2.2024 年度活動方針

⑴ PC カンファレンスのセミナー企画である「大学生協が取り組む学生主導の学び合いとコミュニティ再形成について」をうけて、ポストコロナ禍でキャンパス内に学生が戻り、キャンパス内でのコミュニティの再形成に向けて研究をする。

⑵ 学生同士の学び合いや経験を継承する場づくりの研究、現状と変化について継続的調査を行う。

⑶ 上記⑴⑵の活動を通じて生協職員の CIEC 会員の増加につとめる。

数理・データサイエンス・AI 教育研究部会

１．2023 年度活動報告

１）2023PC カンファレンス セミナー「初等中等教育におけるデータサイエンス」

小中高部会と共同で、2023 年 8 月 19 日（土）14:15-15:55 に、2023PC カンファレンス（つくば国際会議場）にてセミナー（セッション）を開催

２）2023 年度シンポジウム―データサイエンス教育における生成 AI の利活用と今後の展開―

2024 年 3 月 25 日（月）15:00-17:00 に、大学生協杉並会館（B1F、103 会議室）およびオンライン（zoom）のハイブリッド形式で研究会を開催

３）世話人会（オンライン）の開催

2024 年 2 月 17 日-3 月 1 日（金）23:55 に世話人会をオンライン（メール審議）で開催。

２．2024 年度活動方針

・大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の実施状況について

文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に関して、多くの大学で全学教育として数理・データサイエンス・AI 教育が導入されつつある。その導入方法や内容についても多種多様であり、これらの情報共有は有意義である。本研究部会では実施状況を検証しつつ、各大学での導入事例等の情報共有を行う。

・新課程における数理・データサイエンス・AI 教育の展開

初等中等教育における学習指導要領の改訂により、新しい内容での入学試験が 2025 年度入試から導入される。これらの内容に対する共通テストにおける数学や情報での問題作成の方向性や試作問題等を踏まえた各学校での対応状況や大学における新しい入試形態等の対応について情報共有を行う。また小学校・中学校での全国学力・学習状況調査におけるデータの分析に関係する出題問題等に触れ、小中高との体系的な学びについても議論する。

・生成 AI を活用した数理・データサイエンス・AI 教育の構築

昨今、急激に導入されつつある生成 AI を用いた数理・データサイエンス・AI 教育分野への適用について、その実態を把握しながら、今後の活用についても議論する。合わせて利活用に関する際の注意事項や課題についても議論を行う。

具体的な活動

(1) 2024 PC カンファレンス（東京都立大学 南大沢キャンパス）でセミナーの実施
(2) 小中高部会と連携して、研究会の共催（6 月）
(3) 研究部会の実施（冬季開催）
(4) 世話人会の実施（年 2 回）
(5) 関連学会・研究会との連携した情報共有
(6) ウェブサイトでの情報発信

北海道支部

１．2023 年度活動報告

(1)「PC カンファレンス北海道 2023」の開催

2023 年度は、会場校を酪農学園大学会場として「PC カンファレンス北海道２023」を 5 類移行を受けて対面で開催した。Slack での情報共有と Zoom での実行委員会により準備を進めた。およそ半日の開催としたが、基調講演 1 件、分科会発表 14 件そのうち学生発表は 7 件であった。発表は一部ハイブリッドで対応した。コロナ禍前との比較は難しいが、講演後のセッションならびに分科会では 50 名に及ぶ参加者と活発な質疑が行われた。複数の課題も見えたため、次年度に向けて開催校等決定次第、広報に努めたい。

大会テーマ：生成 AI は教育を変えるのか
日時：2023 年 12 月 17 日（日）12:30～16:30
会場：酪農学園大学 A1 号館（北海道江別市文京台緑町 582 番地）
主催：PC カンファレンス北海道 2023 実行委員会
共催：CIEC コンピュータ利用教育学会 全国大学生協連合会北海道ブロック
協賛：日本データパシフィック株式会社、noa 出版株式会社、日経 BP
プログラム：12:00～ 受付開始
12:30～ オープニング 実行委員長挨拶
12:40～ 講演::「ChatGPT の衝撃！ 教育現場は生成 AI とどう向き合うのか」
講師： 中野 淳 氏（株式会社 日経 BP）
13:50～ 分科会発表数 14 件（うち学生発表 7 件）
16:30～ 学生プレゼンテーション賞表彰ならびに 閉会挨拶
受賞者：公立千歳科学技術大学理工学部 駒井叶登
『中学校部活動指導の地域移行に伴う指導サービスに関する調査及び研究―千歳市地域移行を例にして―』

２．2024 年度活動方針

(1)PC カンファレンス北海道 2024 の開催
テーマ、開催期日等未定であるが、10 月あるいは 11 月に対面開催で実施を予定している。
(2)支部研究会の開催
時期、会場は未定であるが研究会の開催を予定している。

九州支部

1. 2023 年度活動報告

2023 年度の九州 PC カンファレンスは九州大学で対面を基本として開催し，Microsoft 社の講演「AI 活用で進化する高校における端末活用と新時代の大学生像」はハイブリッドで実施した。IT フェアの出展について 34 社から申し込みがあり，コロナ禍以前と同等かそれ以上の規模となった。実行委員会はホスト校の九州大学だけでなく，九州内の大学・事業連合によってオール九州として組織し，協働の実践の場となったことは特筆すべき点である。さらに，新しく「トークセッション」という講演原稿を必要としない発表形式を設定し，発表者が提供する「困っていること，やりたいこと，行ってきた成果」などの話題について，参加者が一体となって自由に討論できる場とした。ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとする情報生活サポート研究会では，教員，学生，生協職員の交流の多様化および対面での交流が困難な事態への対応力の向上を目指して立ち上げた Slack のワークスペースを提供しており，九州 PC カンファレンスの実行委員会等で活用されている。

2. 2024 年度活動方針

九州 PC カンファレンスは，教員，学生，生協職員が共に学び，成長する場であり，ICT 教育や情報化社会について学ぶ場としてだけではなく，語学教育，協同組合活動，平和，地域の学校教育など，さまざまな学びの場と捉えている。2024 年度は長崎大学での九州 PC カンファレンスの開催が決定しており，11 月 16 日(土)，17 日(日)の二日間で実施予定である。情報生活サポート研究会は，引き続き ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとする研究活動を継続していく。本年度は九州 PC カンファレンスにおける支援に注力し，教員，生協職員，学生の協同の中で，新しい時代における大学生協の役割を確かなものにする九州の大学生協と CIEC 九州支部（知の協同組織）が一体となった活動を推進する。

資料２：中期活動計画最終報告

中期活動計画(1)　組織運営の健全性確保

【担当】若林靖永、中村泰之

①学会という組織の健全な運営を実現し続けるために、「財務状況」と「会員数」について、体系的で精緻なモニターを行っていく

・　財務状況については、「剰余金の減少が回避できているか」をチェックする。
・　会員数については、「会員数の減少が回避できているか」をチェックする。

●個人会員は減少傾向が続いているが下げ止まってきている（2020 年 725 名、2021 年 686 名、2022 年 665 名、2023 年 679 名に）。そのため、個人会員の会費収入も減少している（2020 年 3,855,000 円、2021 年 3,783,000 円、2022 年 3,663,000 円）。

●団体会員は加入退会があってほぼ横ばい（2020 年 77 団体、2021 年 76 団体、2022 年 75 団体、2023 年 75 団体）。

●財務については、以前の剰余金の繰越があるが、2022 年度に PC カンファレンスのオンライン開催への変更に伴う施設使用料のキャンセル料負担等もあり、損失を出した。2018 年度決算、2019 年度決算、2020 年度決算、2021 年度決算は黒字であるが、近年はコロナによるオンライン活動への切り替えに伴う経費減少が大きい。会費収入の減少傾向のため、収支はぎりぎりの傾向にある。

②財務状況と会員数のどちらについても、量的な拡大や改善を目指した数値目標を中期的には掲げない。

・　財政的な収入源や会員数について、規模的な拡大目標を掲げることが「学会」という組織には相応しくないと考えられる。
・　ただし、上記 3-①で説明した通り、単年度ごとの数値チェックは実施する。
・　なお、財政面については、数年前までの「赤字予算を組んでいた状態」からは脱しており、現状では特に逼迫していない。

●最後にある通り、経費支出の見直しで赤字予算は脱却し、剰余が黒字になるようになっている。

●従って、会員を大きく増やそうという目標は立てないが、CIEC の更なる活動の展開に向けて新会員を迎え、収入を増やし、新たな事業を進めていくという方向は追求してくことが今後の課題である。

中期活動計画(2)　学会及び大会名称の変更

【担当者】
長岡健、熊澤典良、松下慶太

【活動方針】

(1) CIEC 会員や有識者へのヒアリングなどの調査を進め、学会名称（現在「コンピュータ利用教育学会」）の変更、および、全国大会名称（現在「PC カンファレンス」）の変更に関する検討資料を、理事会に報告する。
(2) 学会名称の変更、および、全国大会名称の変更に関する理事会の方針に基づき、CIEC 会員への広報活動の企画・運営を行う。
(3) 「新・学会名」「新・全国大会名」に移行することが CIEC 総会で決定した後、学会誌の電子化や名称変更の可能性検討、新ロゴの選定などを含め、名称変更に伴い必要となる手続きを進める。

【活動経緯】

(1)　学会名称および全国大会名称の変更に関する調査

- 2021 年 10 月にプロジェクトチームを発足し、2021 年度中に合計 7 回のヒアリングおよび検討会を実施した。
- 2022 年 6 月 CIEC 理事会への報告内容は以下の通り：
  ① 学会名称変更に関するメッセージの浸透はあまり進んでいないと判断する。
  ② 「学会名称変更」を進めるには、会長／執行部／理事会などがリーダーシップを発揮し、CIEC 会員間での議論をリードすることが求められる。
  ③ 「全国大会名称変更」については、PC カンファレンスの中身自体のバージョンアップが進んでいると判断できる。
  ④ このまま中身のバージョンアップを積極的に推進することが好ましいと判断する。ただし、「PC カンファレンス」という現名称の変更については、相応しい変更のタイミングを探るべきと判断する。
- 2022 年 8 月 12 日、一般社団法人 CIEC 定時社員総会において、2022 年度の中期活動計画が承認された。計画承認を受け、プロジェクトチームは以下の活動に取り組んだ。
  ① 具体的な新・学会名称に関する議論は、会長／執行部／理事会が中心となって進めることになり、プロジェクトチームによる「学会名称および全国大会名称の変更に関する調査」は終了した。
  ② 2022 年度におけるプロジェクトチームの活動は、活動方針「(2)学会名称の変更、および、全国大会名称の変更に関する CIEC 会員への広報活動」へと移行した。

(2)　学会名称変更に関する広報活動

- 学会名称変更に関する動画配信を、広報委員会と協力しつつ進めた。
- 2022 年度中、YouTube チャンネル「一般社団法人 CIEC」にて、以下の動画配信を実施した。
  ① 2022 年 11 月「学会名称の変更について（若林靖永 CIEC 会長）」
  ② 2023 年 2 月「学会名称変更に関する会長対談（文教大学 白土由佳先生）」
  ③ 2023 年 4 月「学会名称変更に関する会長対談（早稲田大学高等学院 武沢護先生）：めざそうとするゴール・解決しようとする課題はどう変化しているか？」
  ④ 2023 年 4 月「学会名称変更に関する会長対談（早稲田大学高等学院 武沢護先生）：高校におけるコロナ禍への対応」
- 2023 年 8 月 18 日、一般社団法人 CIEC 定時社員総会において、「2023 年度は、引き続き学会名称変更について検討を進める」という方針が決定した。この決定を受け、2023 年度におけるプロジェクトチームの活動は以下の通りとなった。
  ① 活動方針「(2)学会名称の変更、および、全国大会名称の変更に関する CIEC 会員への広報活動」に関しては、会長／執行部／理事会が中心となって進めることになった。
  ② 学会名称変更に関する検討が継続することになったため、活動方針「(3)学会名称変更に伴い必要となる手続き」に関する活動は、2024 年 8 月まで延期となった。

【活動総括】

(1)　活動方針「(1)学会名称および全国大会名称の変更に関する調査」に関しては、活動初年度（2021 年度）に取り組み、CIEC 会員および有識者の見解について理事会への報告を達成した。

(2)　活動方針「(2)学会名称の変更、および、全国大会名称の変更に関する CIEC 会員への広報活動」に関しては、活動 2 年目（2022 年度）に取り組み、動画配信を通じて広報活動を推進できた。

(3)　活動方針「(3)学会名称変更に伴い必要となる手続き」に関しては、活動 3 年目（2023 年度）に取り組む予定であったものの、2024 年 8 月の一般社団法人 CIEC 定時社員総会まで継続審議が続いたため、取り組むことなくプロジェクトチームの活動が終了した。

(4)　2024 年 8 月以降の活動に関しては次のような方針で対応する。本プロジェクトチームは 2024 年 8 月 18 日の一般社団法人 CIEC 定時社員総会をもって解散する。

中期活動計画(3)　団体連携

【担当】北村士朗、宿久洋、井内善臣、杉田豊

他団体との連携としては、SCSC（スポーツキャリアサポートコンソーシアム）への学会としての入会が承認され、会員となった。今後も同コンソーシアムの会合・イベント類に参加し、具体的な連携活動につなげていきたい。情報関係のコミュニティ（日本システムアドミニストレータ連絡会、日本 IT ストラテジスト協会等）との連携、大学生協との関係強化も検討したが、いずれも具体化には至らなかった。

中期活動計画(4)　K-12(小中高校生)の参加者化

【担当】中村泰之、髙瀬敏樹、平田義隆

【活動指針】

1. 「K-12(小中高校生)本人が学会活動に参加する」ことを目指した仕組み・仕掛けを構築する。
2. 「K-12 と学会が連携すること」の意義に関するメッセージを積極的に発信する。
3. 「K-12 の参加者化」の推進と合わせて、幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、 大学、社会人教育(人材育成)、オルタナティブ教育といったように「ライフステージのあらゆる段階における教育のフルラインナップ」を視野に入れた学会活動を目指して いく。

【活動の経緯】

昨年までにまとまった活動計画として、以下の取り組みを予定していた。

- 「K-12(小中高校生)本人が学会活動に参加する」ことを目指した仕組みとして、これまで小中高部会を中心に継続されてきた「サタデーカフェ」を今後も発展させていくために、ワーキングチームとしても、積極的に協力していく。
- 「K-12(小中高校生)本人が学会活動に参加する」ことを効果的に実現するために、U-18 向けのチュートリアル（探究学習の方法、論文の書き方、プレゼンの仕方など）の開催に向けて、現場の小中高の先生方の意見、要望を調査しながら、最も有効な内容、開催方法を検討していく。

これを踏まえた 3 年目の活動としては、「サタデーカフェ」が定期的に継続開催され、2023 年 7 月以降 9 回実施した（2024 年 5 月末現在)。発表者の内訳は、大学生・大学院生 4 名、小学校教員 1 名、高専教員 1 名、大学教員 4 名、民間人 2 名であった。学生、U-18 担当教員も安定して発表者として参加することができており、これは、K-12 参加者化に向けた現れとなっていると考えている。また、U-18 向けのチュートリアルについては、U-18 担当教員向けの勉強会という趣旨で、2024PC カンファレンスのセミナーの企画として、小中高部会、会誌編集委員会の協力を仰ぎながら実施する予定である。

中期活動計画(5)　重点テーマに関する研究促進

【担当】寺尾敦、菅谷克行、宿久洋

活動計画（５）WG での検討に基づき、「数理・データサイエンス・AI 教育研究部会（略称、MDASH 研究部会)」を設立した。部会の専門領域は (1) 数理・DS・AI (2) 文理融合 (3) リカレント（リスキリング）であり、設立目的・趣旨は「数理・データサイエンス・AI 教育（MDASH）については、近年、その必要性が急速に高まっており、高等教育においては、すべての学生に対して身に付けるべき知識・技能と位置付けられている。多くの大学ではすべての在学生を対象としてリテラシーレベルの MDASH プログラムを開講している。また、新学習指導要領では小学校１年次～高等学校１年次までデータ分析に関わる内容が必修として配置されている。このように、急速に進んでいる MDASH であるが、教員の知識・理解不足や未経験、指導方法の未確立など解決すべき課題も多く残っている。このような状況を踏まえ、この度、CIEC 会員に対し、MDASH の課題や様々な取り組みを共有し、新たな教育方法や教材を検討することなどに取り組むことを目的とし、部会を開設することを計画した。」である。

本研究部会の部会長は竹内光悦（実践女子大学)であり、世話人会構成メンバーは、1.宿久 洋（同志社大学)、2.中村泰之（名古屋大学)、3.輿治文子（東京理科大学)、4.武沢 護（早稲田大学大学院教育研究科・高等学院)、5.吉田賢史（早稲田大学高等学院)、6.菅谷克行（茨城大学)、7.寺尾 敦（青山学院大学)、8.竹内光悦（実践女子大学)、9.大橋真也（順天堂大学)、10.平田義隆（京都女子高等学校)、11.樋口三郎（龍谷大学)、12.篠田有史（甲南大学)、13.末永勝征（鹿児島純心女子短期大学）の各氏である。

中期活動計画(6)　情報発信のチャネル拡大

【担当】角南北斗、興治文子、北村士朗、髙瀬敏樹、橘孝博

ワーキンググループ内での議論や、関連する広報・ウェブ委員会での意見も共有するなかで、情報発信のチャネルの拡大には「イベントを通じて多様な会員の声を聞いて企画化を進めること」や「会員間のコミュニケーションが増えるようなイベントを設計すること」が重要である、ということが確認された。

オンラインでの情報発信に関しては、X（旧 Twitter）のタイムラインのサイトへの埋め込み機能の提供廃止などもあって、情報の共有を（特に会員以外の人たちに）オープンに行いにくくなった、という状況がある。中期活動計画の別のワーキンググループ「学会及び大会名称の変更」との連携では、主に会員向けに会長対談動画等を発信することは（広報・ウェブ委員会の協力もあって）継続的に行えた。しかしながら、同じようにコンテンツを作成し、会員外の一般の人たちにまでリーチを広げるとなると、SNS 公式アカウントでの一方的な情報発信だけでは、その効果は限定的である。PC カンファレンスや春季カンファレンス、あるいはサタデーカフェ（もしくは新しいイベント）のような、参加者と直接関われる場で、情報の共有はもちろん、次の展開やコンテンツに対する協力者を得ていく必要があるだろう。

最大のイベントである PC カンファレンスは、2020 年から 3 回にわたってオンラインでの開催が続き、2023 年のつくば国際会議場での開催を経て、2024 年は大学（東京都立大学）での開催に「ひとまず戻せた」というところで、新たな試みを実施するまでの十分な余裕・仕組みが企画側にないという現状がある。中期活動計画の外になってはしまうが、2025PCC をはじめとするイベントの設計の初期段階において、参加者間のコミュニケーションを支援しイベント価値を高めるための具体的方法を議論する流れを作ることが必要である。

中期活動計画（7）　ダイバーシティ＆インクルージョンの推進

【担当】若林靖永、中村泰之、北村士朗、長岡健、白土由佳、森夏節、鈴木大助、興治文子

今期の理事会では、女性理事および新規理事の増加が図られ、女性理事は個人理事 19 名中 6 名となり、約 3 割となった。また、2023PC カンファレンスにおいては、最終的に利用はなかったが託児所を設け、育児中の会員が参加しやすい環境を整備した。今後も、PC カンファレンス開催中に託児所は引き続き整備する予定である。

多様な背景をもつ会員が参加しやすい学会の環境整備については、社会の変化とともに柔軟に対応していく必要があるため、引き続き学会として意識して取り組んでいく必要がある。

資料 3：CIEC 活動スケジュール

2023 年 7 月

1 日（土）　2023 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会　開催公示
15 日（土）　小中高部会「第 24 回サタデーカフェ」（オンライン）
16 日（日）　2022 年度監事会（大学生協会館）

2023 年 8 月

16 日（水）　2022 年度第 5 回理事会（つくば国際会議場・オンライン）
2023PC カンファレンス第 7 回実行委員会（つくば国際会議場・オンライン）
17 日（木）　2023PC カンファレンス（つくば国際会議場）
テーマ「変わる社会、変わる学習環境」
18 日（金）　2023PC カンファレンス（つくば国際会議場）
2023 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会（つくば国際会議場）
19 日（土）　2023PC カンファレンス（つくば国際会議場）
会誌編集委員会（つくば国際会議場・オンライン）
28 日（土）　定例三役会議

2023 年 9 月

16 日（土）　小中高部会「第 25 回サタデーカフェ」（オンライン）

2023 年 10 月

1 日（日）　研究委員会(オンライン)
4 日（水）　国際活動委員会（オンライン）
15 日（土）　会誌編集委員会（杉並会館・オンライン）
17 日（火）　定例三役会議(オンライン)
21 日（土）　小中高部会「第 26 回サタデーカフェ」（オンライン）

2023 年 11 月

18 日（土）　2023 年度第 1 回理事会（杉並会館・オンライン）
九州 PC カンファレンス（九州大学）
25 日（土）　小中高部会「第 27 回サタデーカフェ」（オンライン）
26 日（日）　2024PC カンファレンス第 1 回実行委員会（杉並会館・オンライン）

2023 年 12 月

1 日（金）　『コンピュータ＆エデュケーション Vol.55』発行
9 日（土）　研究委員会（杉並会館）

小中高部会「第 28 回サタデーカフェ」（オンライン）
17 日（日）　PC カンファレンス北海道 2023（酪農学園大学）
18 日（月）　定例三役会議(オンライン)

2024 年 1 月
15 日（月）　定例三役会議(オンライン)
17 日（水）　研究委員会（オンライン）
20 日（土）　小中高部会「第 29 回サタデーカフェ」（オンライン）
21 日（日）　2024PC カンファレンス第 2 回実行委員会（オンライン）

2024 年 2 月
1 日（木）　研究委員会（オンライン）
14 日（水）　定例三役会議(オンライン)
17 日（土）　小中高部会「第 30 回サタデーカフェ」（オンライン）
19 日（月）　2024PC カンファレンス第 3 回実行委員会（オンライン）

2024 年 3 月
7 日（木）　定例三役会議(オンライン)
9 日（土）　2024 春季カンファレンス（東京理科大学・神楽坂キャンパス）
17 日（日）　2023 年度第 2 回理事会（オンライン）
17 日（日）　2024PC カンファレンス第 4 回実行委員会（オンライン）
25 日（月）　MDASH 研究部会 2023 年度シンポジウム（杉並会館・オンライン）

2024 年 4 月
1 日（月）　2024PC カンファレンスサイト公開
2024PC カンファレンス論文投稿受付開始（4 月 30 日締切）
2024PC カンファレンスイブニングセッション受付開始（4 月 30 日締切）
2024PC カンファレンス CIEC 団体会員発表セッション受付開始（4 月 30 日締切）
CIEC 学会賞公募開始（4 月 30 日締切）
5 日（金）　定例三役会議(オンライン)
7 日（日）　会誌編集委員会（杉並会館・オンライン）
9 日（火）　2024PC カンファレンス教育・IT フェア出展申込開始（5 月 20 日締切）
14 日（日）　2024PC カンファレンス第 5 回実行委員会（オンライン）
21 日（土）　小中高部会「第 31 回サタデーカフェ」（オンライン）

2024 年 5 月

12 日（日）　2024PC カンファレンス時間割編成会議（大学生協会館）
14 日（火）　定例三役会議（オンライン）
18 日（土）　小中高部会「第 32 回サタデーカフェ」（オンライン）

2024 年 6 月

1 日（土）　『コンピュータ＆エデュケーション Vol.56』発行
2024PC カンファレンス参加申し込み開始（8 月 5 日締切）
2024PC カンファレンス論文投稿開始（6 月 30 日締切）
9 日（日）　CIEC131 回研究会（国際活動委員会主催）（オンライン）
テーマ「教師の知恵を結集する：Camtree のデジタルライブラリで教育を革新」
15 日（土）　小中高部会「第 33 回サタデーカフェ」（オンライン）
16 日（日）　2023 年度第 3 回理事会（杉並会館・オンライン）
23 日（日）　CIEC132 回研究会（小中高部会主催・MDASH 部会共催）（京都ノートルダム女子大学）
テーマ「Wolfram 言語で体験！ ワクワク学ぶ AI・データサイエンス授業とは」
2024PC カンファレンス第 6 回実行委員会（オンライン）